

第 63 期(平成 24 年度)事業の概況

1. 会 員

会員数は、平成 24 年 12 月 31 日現在、名誉会員 6、個人正会員 1,916、団体正会員 384(429 口)、学生会員 274 の計 2,580 であった。理事会・会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 124、団体正会員 5(8 口)、学生会員 144 の新入会を得たものの、個人正会員 174、団体正会員 14 (15 口)、学生会員 141 の退会があり、前年同期に比べ計 56 が減少した。

2. 会 計

一般事業予算は、会費収入では平成 24 年初頭の会員数と景気の動向などを考慮し、かつ会員増強を推し進める方針で会員数 5%増としたが、対前年比では 180 万円減の予算をたてた。しかしながら、景気は回復せず、予想以上に会員数が減少し、団体正会員会費と学生会費は予算を達したが、個人正会費は予算に達せず、全体として会費収入は予算に対し 98.6%であった。

一般事業収入は、引き続き景気の低迷の影響を受けつつも、セミナーは回数を 2 回多く開催し予算を大幅に上回ったが、講演大会、会誌収入とも予算に達しなかった。このような状況下で、一般事業支出は、事業費、事務費とも節約に努めたが、結果として特定資産 1,300 万円を繰り入れて、当期収支差金は 2,121,809 円となった。これに前期の繰越金マイナス 4,952,995 円と合計してマイナス 2,831,186 円が次期繰越となった。

展示会会計では、契約会社を変更し、リスクのないようにして、予算どおりの結果となった。

支部会計、部会会計、展示会会計を連結した結果、事業収支差額が予算マイナス約 600 万円のところ、約 1,100 万円の赤字となった。予算に従い、特定資産からさらに 900 万円をとりくずし、トータル 2,200 万円を繰り入れ、協会全体の正味財産は基本財産を除き 5,083,387 円となり、前期より 11,267,471 円減少した。

3. 講演大会等

講演大会は、春季（第 125 回：東京都市大学・3 月 13～14 日）および秋季（第 126 回：室蘭工業大学・9 月 27～28 日）の 2 回開催され、両大会の合計発表件数 358 件、参加登録者 903 名であった。ポスターセッションおよび話題テーマによるシンポジウムは聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。

なお、春季大会において「第 18 回学術奨励講演賞」を 7 名に授与した。秋季大会においては、「第 14 回優秀講演賞」受賞者 3 名を、さらに新設された「第 1 回学生優秀講演賞」受賞者 5 名を選考し、第 127 回講演大会において授与する予定である。

講演大会に合わせて武井記念講演会を 2 回開催し多数の参加者があった。また第 69 回表面技術アカデミック研究会討論会「界面反応のモデル化と解析－基礎から応用まで－」（東京理科大学森戸記念館、12 月 11 日）を開催し、参加者は 61 名であった。

4. 会 誌

12 テーマの小特集および特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 786 ページ、掲載論文は、研究論文 25 件・技術論文 10 件・ノート 5 件・速報論文 20 件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム；(独)科学技術振興機構(JST)] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」および「現場パンフレット(後改称：実務表面技術)」の創刊号から第 62 巻 (平成 23 年)6 号まで掲載している。

5. セミナー

要素技術の基礎的な内容を理解し、今後の研究開発・生産現場に活かすことが出来るように、春季セミナー“表面処理基礎講座－ものづくりのキーテクノロジーを初歩から学ぶ－”(早稲田大学西早稲田キャンパス、6 月 26 日)、冬季セミナー“表面処理基礎講座－上級編－”(早稲田大学西早稲田キャンパス、12 月 13 日)を開催した。また、実務的な内容(生産現場や品質管理などで活用できるもの)を取り上げるとの趣旨から、夏季実習セミナー(I)“めっきプロセスの基礎と評価実習”(東京理科大学野田キャンパス、8 月 2 日～3 日)、夏季実習セミナー(II)“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”(千葉工業大学津田沼キャンパス、8 月 23 日～24 日)、秋季実習セミナー“めっき液の分析と管理”(エビナ電化工業(株)テクノマーク、11 月 1 日)を開催した。昨年より 2 回多く開催し、参加者の合計は 321 名であり、昨年より 198 名増加した。

6. SURTECH

“SURTECH－表面技術総合展”は、“SURTECH”と“METEC”とが統合し、新たに“SURTECH 2012-表面技術要素展”として、主催：本会・日本鍍金材料協同組合・(株)ICS コンベンションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会・(社)日本表面処理機材工業会、特別協力：材料技術研究協会・日本塗装機械工業会・日本塗装技術協会・(社)日本熱処理技術協会により、“nano tech2012 (国際ナノテクノロジー総合展・技術会議)”など 7 つの展示会と同時開催した(東京ビッグサイト、2 月 15 日～17 日)。

出展社(機関)は、38 社 61 小間であったが、特別企画展示「先端めっき技術とその新展開」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専門社の出展や「めっき実演コーナー」との相乗効果により多くの参観者を集めた。全体の参加者は 45,024 名であった。

なお、SURTECH 2012 の併催行事として、国際シンポジウム“表面技術の新しい潮流”を開催し、参加者は 60 名であった。

7. 国際交流

11月14日～16日にイタリア／ミラノ工科大学にてINTERFINISH2012(第18回表面技術国際会議)が開催された。本会を代表して里見会長が参加すると共に視察団(25名)を派遣し、国際的技術交流に成果を収めた。全体の講演発表106件(日本20件)・ポスター29件(日本9件)、会議参加者は約350名であった。

8. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構(ISO)のTC107部門(金属及び無機質皮膜)の国内対応として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会(兼務:ISO/TC107国内対応委員会)を置き、国際規格の制定などに協力した。

9. JIS 規格検討専門委員会

特別委員会の中にJIS規格検討専門委員会を置き、来年度以降の委託事業のテーマについて検討を進めた。

10. 表彰

協会賞1名、功績賞1名、論文賞2件、技術賞1件、進歩賞1名および技術功労賞(団体正会員会社の永年勤続技術功労者)4名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会(表団協)

本会と全国鍍金工業組合連合会、(社)日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、「表団協／産官学合同会議」を開催し、海外進出の実情とグローバル化への対応などについて検討した。また、11月に第22回表団協セミナーを開催し、参加者は70名であった。

12. 支部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、北海道支部は第126回講演大会の成功に貢献した。

13. 部会

新たに「環境および機能性に関する塗料部会」が設立された。また、「カーボン・プラスチック表面技術部会」が廃止された。本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ライトメタル表面技術部会
- ② めっき部会
- ③ 材料機能ドライプロセス部会
- ④ 熔融金属表面プロセス部会

- ⑤ ウエットプロセス研究部会
- ⑥ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ⑦ 表面改質・硬化部会
- ⑧ 溶射・ライニング部会
- ⑨ 電鍍・金型の表面処理研究部会
- ⑩ 表協青年経営技術懇話会
- ⑪ 表面技術環境部会
- ⑫ 環境および機能性に関する塗料部会
- ⑬ 表協エレクトロニクス部会
- ⑭ ナノテク部会
- ⑮ 将来めっき技術検討部会

14. 会員委員会

会員委員会は、会員の減少を食い止め新規会員の入会を促進するために、満 60 歳以上の個人正会員で現役を退いた方を対象に、各種行事の参加に対する「シニア優遇制度」を新設し、28 名の登録があった。また、アジア地域(中国・韓国・台湾・東南アジア)を対象に、会員募集を行った。

15. 将来計画委員会

将来計画委員会に「IT 化検討専門小委員会」を置き、独自サーバーを稼働し IT 環境を整備した。

また、長引く平成不況と、東日本大震災による展示会経費の大幅な赤字により本会の財務状況が悪化したが、これに対応して将来計画委員会を中心に当面の改善方策を検討した。

16. その他